

第64回 全国高等学校PTA連合会 福井大会報告

嚶鳴PTA会長 會津圭一郎

「教育と考福」～未来に引き継ぐ 知と恵み～ を大会研究テーマに、第64回全国高等学校PTA連合会福井大会が、8月21～23日の三日間にわたりサンドーム福井を主会場に全国各地より約一万人の参加者を迎え開催され、本校からは吉田校長・細谷総務課長・大沼、星川PTA副会長の方々と5名で参加して参りました。

大会の開会にあたり、今年度より会長に就任された佐野元彦会長よりご挨拶をいただきました。「毎年開催されるこの大会は開催地それぞれの風土に触れることで新たな発見と視野を与えてくれます。そして各地には地域に根差した偉人がおり思想が引き継がれており、ここ福井には由利公正がおります。近代日本を生み出す頭脳の役割を担った人ですが、現在でも福井県は小・中学校の学力が日本トップクラスを誇っているこの地で、色んな刺激をもらって下さい。」

その後御来賓として下村文部科学大臣より、ご挨拶並びに昨年基調講演いただいた「日本の教育の再生」の1年後の現在について、そして今後についてお話をいただきました。

今年の基調講演は脳科学者・茂木健一郎氏より「今求められる考福脳～脳科学者からの提案～」と題し、高校生が幸福になる為には、というよりも親も含め皆が幸福になるための考え方を考えようという楽しいお話をいただきました。

「まず、幸福になるためには自分の個性を認めることであり、個性とは自分が育った地域環境を受け入れること、良い面、悪い面全てを受け入れることが大事であり、自分の欠点をユーモアを交えて話しが出来るようになることも必要である。また自分の個性を見つめる事は、人生を見つめ直す事でもあり、自分を受け入れた上で積極的に他人との交わりや旅をすることにより、脳細胞に多くの刺激を受けるとい事が大切である。」

また、昨年に引き続き山形市内の高校からの参加者で懇親会を行うなど、福井県（宿泊は金沢市）に来ることが出来、私自身沢山の刺激を受けることができました。

社会の変化はあまりにも激しく次々と新たな課題が押し寄せてくる現代、我々は応急手当てに追われています。そのような状況でも10年、20年後の姿を思い描きながらPTA活動を通して未来ある若者の為に行動していかなくてはいけないと考えさせられた大会でありました。